

平成20年8月7日

佐渡市長 高野宏一郎様

佐渡市行政改革推進委員会

会長 中川英男



佐渡市行政改革推進委員会答申について

平成19年6月28日付け、佐行第33号をもって諮問がありました佐渡市行政改革大綱実施計画（集中改革プラン）の実施評価については、平成20年3月31日に答申したところでありますが、出納閉鎖を経て実績が確定する項目もあったことから、このたび実績数値の報告を受けて最終評価を終えたので、改めて別記のとおり答申します。

平成19年度佐渡市行政改革マニフェストの評価について

平成19年度佐渡市行政改革マニフェストについて、各部局の取組み項目の実績が確定したことから、当委員会の評価マニュアルに基づき、平成20年7月30日に最終評価を実施し、下記のとおり結果についてのまとめを行った。

つきましては、当委員会の評価結果を踏まえ、行政改革大綱の目標である「時代の変化に対応した新しい佐渡市の形成」に向けて、更なる取組みを推進されたい。

記

1. 全般的な事項

各部局長のマニフェストの取組みについては、努力の跡も伺え評価の高い部分もあったが、改善や検討を要する事項のウエイトが高く、全体的には低い評価結果となった。

このことから、以下の事項について検討を重ね、集中改革プランの更なる取組みの強化並び推進を求める。

(1) 項目設定について

取組み項目の設定については、内部の事務改善的な項目ではなく、市民目線に立ち、市民も改革意識を共有し、実感と評価のできる項目の設定を行うこと。

(2) 目標設定について

目標値については、達成可能な範囲で設定したのが見受けられるが、あくまでも改革の視点に立ち、ビジョンをもった果敢な目標設定をすること。

(3) 目標達成への取組みについて

目標達成に向けては、行革推進本部を機能させ各部局長の強いリーダーシップの下、部局内はもとより直接市民と接する支所も含め、全職員で共通した認識を持ち一丸となった取組みとするための創意工夫を図る気運を早急に醸成すること。

また、改革は行政サイドだけの取組みではなく、市民の理解、協力が不可欠なことから、全体の取組みと併せ各部局においても、市民が関心を持つ斬新な改革の目玉を取り入れたマニフェスト項目の設定と周知を図り、単に削減だけの改革にとどまることなく、選択と実効により行政サービスの維持向上を目指し、時代の変化に対応した新しい佐渡市の形成に向けた意欲ある改革姿勢であることを公表し理解を求めること。

(4) 取組み後の対応について

実施項目については、達成した項目、未達成項目に対する事後検証を十分に行い、

継続への対応にあたり手段を具体化し、より効果的な取組みを行うこと。

- 2 . 各部局長のマニフェストの評価
別紙のとおり

佐渡市行政改革マニフェスト（総務部）の評価

今年度の取組に対する部局長のコメント（自己評価）

自主防災組織の結成率を高めるよう市長からの督励に対し、臨機応変な対応が難しい。特に今年度から出前市役所制度が本格的に稼働していることから、あらゆる手段を駆使し、目標達成に向けて努力する必要があると感じている。

【良かった点】

公有財産の有効活用について、公表することにより一定の理解が得られている。

【悪かった点】

目標達成が難しい項目（例：有料広告）について、職員全体の知恵を出せるような取組が必要と感じた。

改革項目	評価結果	
1．時間外勤務手当の削減 2．市長への便りへの迅速な対応 3．広報等への有料広告の掲載 4．備品等管理体制の見直し 5．公有財産の有効活用 6．危機管理体制の整備 7．行財政の改革 8．職員定数の改革	計画の妥当性	C
	取組過程	C
	実績	C
	実施後の対応	C
	総合	C

佐渡市行政改革推進委員会のコメント（第三者評価）

【計画の妥当性】(Plan)

- ・成果を上げるべく具体的なスケジュールを市民に示すべきである。
- ・積極的に多くの項目を設定しているが、より高い目標を設定すべきである。
- ・質的な部分について、もう少し検討すべきである。

【取組過程】(Do)

- ・市民との情報共有化が不足している。
- ・情報共有、意識啓蒙や風土づくりについて、本庁機能の充実と支所との連携強化を図り、更に調整の必要がある。

【実績】(Check)

- ・コスト削減に向けた努力は伺える項目もあるが、時間外勤務、備品等の管理体制の見直し及び公有財産の有効活用等の重要項目に対し更なる努力が必要。

【実施後の対応】(Action)

- ・職員定数の適正化計画を上まわる削減を進めているが、長期的な視点から組織の充実、市民ニーズへの対応、職員認識の不調和等が懸念されるため、今後十分な検証が必要である。
- ・市民説明が不足すれば市政発展にも支障が生じることを認識し、協働の構築に向けた対応が緊急課題と思われる。

佐渡市行政改革マニフェスト（企画財政部）の評価

今年度の取組に対する部局長のコメント（自己評価）

マニフェストの趣旨が職員に充分理解されていなかったために、目標達成には何時までに何をやるかの計画が必要となるはずが、そのことを業務の中で忘れた状態で日々の業務を行っていたように感じている。目標を常に頭に入れながら次の業務の取組みが必要になってくることを浸透させたい。

【良かった点】

目標達成を意識する係も見られた点は良かったと感じており、如何に実現に結び付けるかを考える次のステップに導くきっかけとなる。

【悪かった点】

良かった係とは逆に、目標を立てる時点で安易に数値を設定したような感も見られ、日ごろの業務の中ではその数値は既に別のものと置き去りの感じが見受けられた。

改革項目	評価結果	
1．成果重視の予算編成 2．実質公債費比率の改革 3．電子入札制度導入を見据えた入札事務の電子化 4．政策決定過程への女性の参画 5．定住促進対策 6．地域情報化の推進	計画の妥当性	C
	取組過程	D
	実績	C
	実施後の対応	D
	総合	D

佐渡市行政改革推進委員会のコメント（第三者評価）

【計画の妥当性】(Plan)

- ・所管各課で取り上げた課題に対し、把握が不十分であり積極性の欠如が感じられる。
- ・成果重視の予算編成については、市民に分かりやすい表現とすること。また、徹底した歳出削減は市民に理解が得られ、痛みを分かち合えることが望まれるが、過去にもその努力が不足している。
- ・定住促進対策については、限界集落の増加等、集落崩壊の危機及び産業衰退に歯止めがかからず推移しており、大胆且つ積極的に目標数値を掲げ最重点施策として取組むべきである。

【取組過程】(Do)

- ・部長のリーダーシップと所管職員間に、一部意思疎通の欠如が伺える。

【実績】(Check)

- ・目標設定もあるが、達成度が低い。内容を検証し、次なる対策を講ずる必要がある。

【実施後の対応】(Action)

- ・UIターン受入対策、ケーブルテレビ加入率向上等、重要課題の達成に向けた改善策や手法に工夫が必要である。
- ・所管課別にもマニフェストに関する取組みに部内共通の理解不足が感じられる。

佐渡市行政改革マニフェスト（市民環境部）の評価

今年度の取組に対する部局長のコメント（自己評価）

初めての手法の導入であり、日常業務のなかでの評価や改善に対する取り組みは一定の経験を通して実るものとする。

【良かった点】

行政改革の評価と改善策についての認識がめばえた。

【悪かった点】

必要と考えているが体制や数値としての効果が年度途中のため明らかにならない。次のステップがふみ出せないことが多い。

改革項目	評価結果	
1．市税等の財源確保 2．地球温暖化対策の取組 3．グリーン購入の推進 4．トキ野生復帰への取り組み 5．ごみの減量化、再資源化の推進	計画の妥当性	C
	取組過程	C
	実績	C
	実施後の対応	C
	総合	C

佐渡市行政改革推進委員会のコメント（第三者評価）

【計画の妥当性】(Plan)

- ・意欲的で多岐にわたる項目を設定しているが、一部項目について、目標値が低いものや必要性や手段が明確でないものがある。
- ・市民生活に密着した項目は評価できるが、その取組み手段が明確でない。

【取組過程】(Do)

- ・ごみ問題は市民への意識改革と協力が重要であり、そのためには地道な説明とPRを継続する事が重要である。
- ・目標達成に向けての取組みが精力的に行われなかった点について、部長自らが認めなければならない状況は早期に改善すべきである。

【実績】(Check)

- ・概ね達成されたものと思われるが、もう少し早い取組みで更に実績は向上したのではないかと。
- ・税、保険料徴収率の向上については、目標値を前年より低く設定しているにもかかわらず、実績が上がらない点は努力不足が感じられる。

【実施後の対応】(Action)

- ・すべては市民の皆さんの協力、自主性をもって進めて取組んで行くべきものなのでしっかり説明をし周知してもらいたい。

佐渡市行政改革マニフェスト（福祉保健部）の評価

今年度の取組に対する部局長のコメント（自己評価）

目標の達成に至らない項目が多かった。各マニフェストの進捗状況の把握と評価を行い、課題を明らかにしながら、目標達成に向けた努力が必要である。

【良かった点】

マニフェストの推進に向けた意識と取組む姿勢が認められるようになっている。

【悪かった点】

保育料収納向上の方策並びに各種健康診査の受診率向上については、さらに工夫が必要と思われる。

改 革 項 目	評 価 結 果	
1．保育料収納向上の改革 2．保育園の統合 3．行政サービスの向上 4．各種健康診査の受診率向上	計画の妥当性	C
	取 組 過 程	C
	実 績	C
	実施後の対応	D
	総 合	D

佐渡市行政改革推進委員会のコメント（第三者評価）

【計画の妥当性】(Plan)

- ・市民一人ひとりに直結した部署として、市民に分かりやすい表現とすべきである。
- ・福祉部門として、項目数が少ない。
- ・取組みに対して従来の手法だけでなく、斬新な取組にもチャレンジすることを望む。

【取組過程】(Do)

- ・健康は予防と早期発見が大切であることを市民に積極的にPRし、取組むべきである。
- ・改革効果をあげるためには、所管職員の意識の共有と姿勢・意欲が不可欠で、部局長の断固としたリーダーシップが必要である。

【実績】(Check)

- ・実績については前年を下回るものがあり、その原因究明と対策を要する。

【実施後の対応】(Action)

- ・各種健康診査の受診率向上については、予防、高齢化対応に視点を置き、新たな手段の創出と緻密な努力の継続が必要である。
- ・市民説明が不足しており、理解を得られていない現状があるのではないか。

佐渡市行政改革マニフェスト（産業観光部）の評価

今年度の取組に対する部局長のコメント（自己評価）

全体的に目標達成に向けて職員一丸となって取り組みが進められたが、外的要因によって目標が達成できなかった事例が見られた。

【良かった点】

環境保全型農業の推進や合宿誘致事業などについては、目標を大幅に上回る結果を出すことができた。

【悪かった点】

中越沖地震等の影響で観光客誘致数が減少し、またブリの不漁により海洋深層水氷の利用が落ち込んだこと等、外的要因により目標が達成できなかった事例が見られた。

改 革 項 目	評 価 結 果	
1．環境負荷低減活動の推進 2．地域特性を生かした産業の振興 3．直営施設管理運営の適正化 4．新たな財源の創出	計画の妥当性	C
	取 組 過 程	C
	実 績	C
	実施後の対応	C
	総 合	C

佐渡市行政改革推進委員会のコメント（第三者評価）

【計画の妥当性】(Plan)

- ・ビジョンが示されており、項目数も妥当であるが、手順や手段が明確でない項目がある。
- ・先進的且つ斬新な取組みを展開し、着実に実現する意気込みの変化が今一つ感じられない。

【取組過程】(Do)

- ・地産地消と安全安心の食料 学校給食 農家所得 この連携に視点をおき集落営農等組織率の数値目標を高くすることを望む。
- ・竹林整備面積が目標を大きく下まわり、僅か 0.1ha、4.1%に留まった点及び企業誘致成立が未達成であったこと、UIターン者の職業紹介者数が少なかった点については相応な対応の努力が疑問視される。

【実績】(Check)

- ・環境負荷低減活動の推進及び新たな財源の創出の合宿誘致についての成果は相応な評価ができる。

【実施後の対応】(Action)

- ・達成できなかった項目についての具体的な改善策を講じて、部内で共有しながら取り組む必要がある。

佐渡市行政改革マニフェスト（建設部）の評価

今年度の取組に対する部局長のコメント（自己評価）

全体としては一定の成果をあげることができたと思っている。しかし、特に下水道事業に対する市民の十分な理解が浸透されてないこともあり、接続率が低く下水道事業の運営に支障をきたしている。今後重点的に普及促進を図る必要がある。

【良かった点】

水道加入戸数の70%において、料金の統一ができたこと。

【悪かった点】

実績と今後の対応について市民に十分説明することができなかった。

改 革 項 目	評 価 結 果	
1．行政手続きの簡素化 2．市営住宅使用料・収納率の向上 3．事務事業の見直し 4．水道使用料徴収率の向上 5．水道料金の統一 6．下水道計画の見直し 7．下水道水洗化率及び使用料収納率の向上 8．生活排水の垂れ流し対策	計画の妥当性	B
	取 組 過 程	C
	実 績	C
	実施後の対応	D
	総 合	C

佐渡市行政改革推進委員会のコメント（第三者評価）

【計画の妥当性】(Plan)

- ・市民の視点に沿ったもので、具体的に示されており評価できる。
- ・一部の項目で目標値が低いものや取組みの具体化を図る必要がある項目がある。
- ・許認可並びに処理日数の短縮については評価できる。

【取組過程】(Do)

- ・年毎に実績が向上している項目が多く、地道な努力を評価したい。
- ・市営住宅使用料の徴収率については、依然として改善されておらず遺憾である。公共下水道新規接続世帯数は、目標を大きく下まわっており、公共事業運営の効率化並びに環境対策上も改善に向けた強力な対応が望まれる。

【実績】(Check)

- ・努力の跡が見られ目標が達成されており評価できる。更に前倒しする取組みが必要である。

【実施後の対応】(Action)

- ・市営住宅使用料、水道使用料、下水道使用料の未納世帯の解消及び生活排水の垂れ流し対策について、問題点の対策を十分に検討し、更なる努力が必要と思われる。

佐渡市行政改革マニフェスト（議会事務局）の評価

今年度の取組に対する部局長のコメント（自己評価）

合併して以降、議会に対する関心を高めるために、議会の情報を出来るだけ早く市民に届けることを目標として、HPの内容を検証し、多くの議会情報を掲載すること。また、全国からの市議会の行政視察を受け入れられるように取組んできた。

アクセス数：6月1,863件 7月683件 8月586件 9月1,251件 10月864件
11月2,533件 12月1,242件

【良かった点】

4つの項目を追加し、より多くの議会情報が発信できた。他市議会の行政視察も、佐渡市独自の施策をHPに掲載し、全国の議会議員の目に触れることが出来た。

【悪かった点】

行政視察はどの市も議会のない時期に行うが、一番多い夏に中越沖地震があったこと、その後の風評被害が大きかった。又、HP制作に初めて取り組んだこともあり、システムへの理解、手法等の研修と実践において手間取り完成が遅れた。目標が下回ったことは風評被害によるところが大きい。

改革項目	評価結果	
1. ホームページの充実	計画の妥当性	C
	取組過程	C
	実績	C
	実施後の対応	C
	総合	D

佐渡市行政改革推進委員会のコメント（第三者評価）

【計画の妥当性】(Plan)

- ・市民の理解が得られる取組みが望まれる。
- ・議会への関心を高めるため、傍聴者数を増やす取組みが必要である。

【取組過程】(Do)

- ・ホームページの充実については、目標期間は3カ月遅れとなっているが、相応な評価ができる。
- ・局長のリーダーシップが発揮できる内容は大幅に制約され、マニフェストの設定になじまない部署と思うが、議会对応の先進地事例を公表することも良いと思う。

【実績】(Check)

- ・当初の目標は達成されたが、市民の目線で幅広く、奥行き深いものにしてほしい。

【実施後の対応】(Action)

- ・目標のクリアを機に機能の更なる利活用について、他部署との連携、議員の理解、市民への周知等に効果的な運用の工夫を検討することを望む。

佐渡市行政改革マニフェスト（教育委員会）の評価

今年度の取組に対する部局長のコメント（自己評価）

掲げた全項目について目標を一部達成することができたが、全体の成果としては低い評価となった。また、当初経験の少ないスタッフであることが気になり、そのことが結果にでているようである。部の重点項目については全員が十分その重要性を認識し、情報共有すると共に一致団結して取組むことにより、今後良い結果がでるのではないかと期待するものである。

【良かった点】

体育施設 ・ 未利用機器を活用し、トレーニング機器の充実を図ることができた。

・ 従来の教室に加え、新規に教室を開催し利用者の増員につながった。

世界文化遺産の推進 ・ これまでの課題は、専門家の指導、助言により、内容のあるものになった。

【悪かった点】

給食業務・体育施設・世界遺産文化の推進 ・ 実績に対する市民の質問や要望に対応する方法が今後の課題となっている。

世界文化遺産の推進 ・ 登録に向けた各種の情報提供等を行ったが全島的な盛り上げに至らなかった。

改革項目	評価結果	
1．給食業務の施設再編の改革 2．学区再編と学校統合の推進の改革 3．施設間の連携強化と整理合理化の検討 4．世界文化遺産の推進 5．博物館・資料館の使用料等及び減免基準の見直し	計画の妥当性	C
	取組過程	C
	実績	B
	実施後の対応	C
	総合	C

佐渡市行政改革推進委員会のコメント（第三者評価）

【計画の妥当性】(Plan)

・ 統廃合に全力を尽くすことが佐渡市の改革の成果となるので、計画と実行に整合性のある数値が求められる。

・ 教育の質についての指標化が課題である。

【取組過程】(Do)

・ 平成19年度目標数値はほとんど達成しAとすべきところだが、通常業務の範囲内のものが多いと思われる。

【実績】(Check)

・ 全体的には目標を達成しており評価できる。

・ 世界文化遺産に関するシンポジウム等についての参加者は、目標値を上まわる実績があったが、市民の理解と盛り上がりは不可欠であり、目標値をランクアップし、強いリーダーシップでの継続が望まれる。

【実施後の対応】(Action)

・ 小中学校統合に関する説明会の回数は目標を上まわっているが、地域において具体的な内容が理解、満足できるかが問われることから、問題点をその都度整理し、誠実な対応に取り組むべきである。

佐渡市行政改革マニフェスト（選挙管理委員会）の評価

今年度の取組に対する部局長のコメント（自己評価）

新潟県議会議員選挙の結果は良かった。その経験を下に取り組んだところであるが「目標」に対する結果は良くなかった。これは、疑問票が多数出たため、その対応が不十分であった。他候補者の票が混入していたため開票立会人の信頼を得られなかった。ことによるもので、得票の再チェック等に時間を要した。次回選挙にはこれ等の問題点を見直し、改善したい。しかし、前回の選挙と比較すれば改善されている。

【良かった点】

目標に向かって事務局が工夫努力をし、事務の改善に取り組んだ。

【悪かった点】

票の分類方法を研究する必要がある。先進地の事例を調査し改善したい。

改 革 項 目	評 価 結 果	
1．開票事務の迅速化	計画の妥当性	C
	取 組 過 程	D
	実 績	D
	実施後の対応	D
	総 合	D

佐渡市行政改革推進委員会のコメント（第三者評価）

【計画の妥当性】(Plan)

・効率的且つ迅速な開票事務を大きな目標値で取り組む姿勢は評価できるが、同時に投票率向上についての取組みも重要である。

【取組過程】(Do)

・開票確定目標時間が3倍オーバーは、認識の欠如と言わざるを得ない。具体的、個別業務の目標の積み上げを軽んじた結果であり大いなる反省と原因究明をし、今後に備えることが重要である。

・開票結果に対する有権者の関心が高いことを再認識し、事前に十分な意思疎通と調整を図ることは当然の責務であり、今回の教訓を次回以降に活かすことを強く望む。

【実績】(Check)

・結果は遠く及ばなかったが、開票確定時間の短縮に取り組もうとした姿勢は評価したい。

【実施後の対応】(Action)

・選挙の種別ごとの対応を図ることが必要である。

・結果と今後の対応について、十分な市民説明を図ること。

佐渡市行政改革マニフェスト（農業委員会事務局）の評価

今年度の取組に対する部局長のコメント（自己評価）

品目横断的安定対策は平成19年度から新規導入され、加入申請手続期間が7月2日と短かったこともあり目標達成が出来なかった。また、次年度では品目横断的安定対策に加入しやすくなるような特例措置の調整が検討されており稲作農家の加入に期待される。

小作料の統一及び改訂は想像出来ない位、米価の仮渡金の減額に対し早急に対応が出来た、改訂額も今までにない減額表示になったが、思っていたよりは苦情、相談が少なかった。

【良かった点】

特になし。

【悪かった点】

特になし。

改 革 項 目	評 価 結 果	
1．地域特性を活かした産業の振興	計画の妥当性	C
	取 組 過 程	C
	実 績	C
	実施後の対応	C
	総 合	D

佐渡市行政改革推進委員会のコメント（第三者評価）

【計画の妥当性】(Plan)

- ・産業観光部と連携し、U・Iターンを含めた地域の担い手の育成・確保並びに生産組織再編等、農業の深刻な現状に対する取組みも必要である。

【取組過程】(Do)

- ・平成20年度適用の標準小作料の設定に向けた取組みについては、評価できる。
- ・品目横断的経営安定対策の加入支援については、取組過程の説明から推察すると、通常業務の範囲内のものと思われる。

【実績】(Check)

- ・標準小作料の統一は評価できる。
- ・水田経営所得安定対策への取組みは重点でもあり、関係課と連携し更なる努力が必要である。

【実施後の対応】(Action)

- ・農用地の有効活用、維持管理及び受委託組織等関連する事項についても、関係機関と十分検討を重ね、現状把握と将来ビジョンを共有し農家組織の指針の助言に取組まれたい。

佐渡市行政改革マニフェスト（消防本部）の評価

今年度の取組に対する部局長のコメント（自己評価）

新たに海府分遣所、前浜分遣所が開設となり、国中地区の拠点整備が遅れ人員配置が分散することとなり、各署のマニフェスト対応については非番職員や職員のボランティアでの対応となったが、応急手当の普及についてはある程度の対応が出来た。また、新規に掲げたAEDの普及については、公共施設は当初5台の整備であったが、寄附が15台あり大変助かった。事業所関係のAED設置については、大きなホテルは積極的に対応して頂いたが、お客様に対する最も重要な備えは、安全、安心が基本という意識を持ってもらえず予定を下回る結果となった。火災件数と焼死者については、大きな課題として今後の対策が必要で。

【良かった点】

普通救命講習については、自分の家族、職場の人の命は自分が守るという意識が育ち、受講者数が増加しているように思う。

【悪かった点】

昨年推進委員会から救急搬送の利用実態の把握と課題を整理して、次の取組みに反映させるよう意見を頂いたが、救急車の適正利用についてPRしただけで、実態把握には至らなかった。

改 革 項 目	評 価 結 果	
1．応急手当の普及啓発活動の推進 2．AEDの設置促進 3．焼死者防止対策	計画の妥当性	C
	取 組 過 程	C
	実 績	C
	実施後の対応	C
	総 合	C

佐渡市行政改革推進委員会のコメント（第三者評価）

【計画の妥当性】(Plan)

- ・仕事に対する改善意識、向上意識が感じられる。
- ・予防、防火等に関する普及、啓発活動に関し、工夫された手法が明確でない。住宅用火災警報器の設置については、市民に設置義務や期限等が理解される取組みに一層の努力を行うべきと考える。

【取組過程】(Do)

- ・全体を通じて、内部の統一事項として徹底がなされていたと感じる。
- ・応急手当の普及啓発活動の推進については、目標を上回る成果は評価できる。
- ・AEDの取扱説明受講者数において、特に公共施設で目標数値を大きく下まわる結果となっているが、利用者の多い施設、場所での取り扱いは徹底が急務である。

【実績】(Check)

- ・全体的には概ね達成されているが、冬期に頻発する火災については、防火週間等に限らず、随時相応な方法により注意喚起に一層の努力を望む。

【実施後の対応】(Action)

- ・一時的な目標、取組みに留まらず、継続して効果の上がる項目も少なくないので職務内容を絶えず認識し、先進的かつ誇りと意欲をもって改善策に当たることが望まれる。